

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 12月号

2017年12月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：友寄 彩（牧港中央病院）

学会参加報告

豊見城中央病院 地域医療連携室 東門麻里子

去った10/7（土）から10/8（日）に福岡県北九州市にて第23回日本腹膜透析医学会学術集会・総会が開催され、当院から医師、看護師、薬剤師、心理士、MSWが参加させていただきました報告します。

当院では腎不全サポート外来を開設して5年目となります。腎機能が低下している患者に対し、腎代替療法の説明から療法選択、治療を一貫して行っています。腎代替療法には腎移植、血液透析（以下、HD）、腹膜透析（以下、PD）、非導入が主な選択肢としてあります。そのどれも患者にとっては生活を大きく変えることになるのでMSWとして相談支援を行う上では初回面談は非常に緊張します。PDは個人的に大変興味深い治療法で、今回で3回目の学会参加となりました。

PDは患者自身が行う在宅医療です。腹部にカテーテルを留置し、透析液を一定時間体内に貯め、腹膜を通して電解質が不純物として濾過され、体内の体液バランスが保たれるという仕組みです。自立した方であれば、腹膜が劣化しない3年から8年程度の維持透析を自宅でご自身の生活に合わせて施行できます。他の病院にPD患者さんの件で連絡した時に『未だにそんなことやっているの』と言われたことがありました。なぜそのようなことを言われるのかわからなかったのですが、PDは一度衰退してしまった治療法だったことがPD学会に参加する中で勉強させていただきました。PDカテーテルの出口部やトンネル感染、腹膜炎、被嚢性腹膜硬化症（EPS）、イレウス症状、血性腹水などを発症してしまうことからPD治療が避けられてしまう要因だったようです。ただ、近年はPDに関わる企業の努力によって清潔動作が保持できるようになり、透析液も腹膜炎を起こさないように開発され続けています。小倉記念病院の原田医師によると、残腎機能が生命予後を決めるとのお話がありました。「腎代替療法を選択しましょう」、と言われたら生命予後についても考えなくてはなりません。確かに透析導入は生活を変えます。ギリギリまでやらなくていい（と思える）治療を待ちたい患者さんがいることも事実です。腎機能が低下しても自覚症状がないこともこれまで関わった患者さんから教えていただきました。ただ、治療

CONTENTS

腹膜透析学会報告	1~2
初任者研修報告	2~3
コラム	4
新入会員	4~5
理事会議事録	5~7
はいさいワーク	8~10
各部門報告	11
めだかの学校	12
編集後記	12

を先延ばしにするリスクについて話されていないことが気にかかります。『残腎機能が生命予後を決める』はぜひ皆さんに知って欲しいと思いました。

さて、沖縄県では PD 治療はまだマイナーな治療法です。県内に HD 患者が 4000 人いるのに対し、PD 患者は 100 名程度です。ただ、PD 療法を提案できる医療機関は琉大病院を始め県内には多数存在します。PD 治療できる医師も多くいらっしゃいます。患者さんに腎代替療法を提示し、PD を選択された場合、私達 MSW ができることはなんでしょうか。ちなみに先述の原田医師によると、高齢者が PD 治療を離脱する理由は、①社会的理由②感染症③体液過剰の順であり、若い方が PD 治療を離脱する理由は、①体液過剰②感染症③社会的理由とのことでした。感染症、体液過剰は治療を再検討していくこととなりますが、『社会的理由』には、私達が介入する余地がありそうです。最後に高齢者 PD の先駆者である岡山済生会総合病院平松信先生のお言葉を添えて私の学会報告とさせていただきます。ぜひ、一緒に考えていきませんか。

『末期腎不全にて透析が必要と説明した際に『透析をしてまで長生きをしたくない』という高齢者は少なくない。その心の内は、透析は大変な医療であり、一生続けなければならないことから、家族にも迷惑をかけるという漠然とした不安感から生じるものであり、腎不全以外に致命的な合併症や共存症がない高齢者自らの判断で天寿を短くする理由とはならない。PD 療法は身体的・精神的・社会的メリットを考慮すると高齢者、特に後期・超後期高齢者に適した療法である。高齢 PD 患者の社会的課題の解決が今以上に求められる。高齢者の PD 療法は医療経済的にもわが国の透析医療のパラダイムシフトとなる』

平成 29 年度 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会初任者研究会報告

【研修会に参加して】

沖縄協同病院 島袋道子

三日間に分けた初任者研修に参加させていただきました。一日目は、MSW 業務、ソーシャルワーク価値と倫理、生活保護や医療保険についての内容で、病院にソーシャルワーカーがいる意味それは単に退院させることではなく、命に関わる対策が取られているか？傷病の慢性化や長期化し、生活に困難が生じる予防策を講じ適切な対応をすることが医療機関の中のソーシャルワーカーに求められていることだと学びました。

二日目は、介護保険制度の実践、急性期や回復期、ホスピス病棟、精神科病棟など医療機関機能別の専門知識についてやチームでの MSW の役割を内容で、機能別医療機関の特性を学び、実際自分が所属する機関との連携の在り方が理解できるものでした。

三日目のアセスメントや記録については個人の価値観ではなく専門職としての視点できちんと捉えられているのか、日々の業務が振り返ることができるもので、退院援助は事例を通して必要な知識や方法をグループワークで意見を出し合いチーム医療について考えました。そして、ソーシャルワーカーは誰のもので何のためのものなのかという存在意義を確認し、自分を振り返ることで軌道修正できる機会となりました。

研修会では、緊張して受講者とワーク以外のことを多く語れませんでした。初任者として少しでも学んで実践に活かしたい、同じ想いを持った仲間との出会いが日々業務に追われることの支えになることは間違えなく感じています。ありがとうございます。

最後に、企画運営と講師をしてくださいました協会関係者の方へ、貴重なお時間と温かいご指導に感謝いたします、研修で学んだことがMSW力として発揮できるように精進したいと思います、ありがとうございました。

10/1 最終回の研修風景



(先輩たちも急遽GWを行い見本となる発表が出来たかな?)

【全体報告】

北中城若松病院 香村真範

昨年度は土曜半日×5回（5回目は宿泊研修）でした。会を増すごとに参加者が減り、それを踏まえ今年度は日曜1日×3回で実施しました。

運営する側、そして参加者のことを考えるとこのような形が望ましいのかなと感じています。その結果として、1回目（18名） 2回目（22名） 3回目（19名）と安定した参加者数でした。

また、昨年度修了証の該当者（すべての講義を受講した方）は2名。今年度は10名でした。企画側としてはうれしい限りです。対象者へは修了証をそれぞれの施設へお送りいたしますのでお待ちください！今年度、受講できなかった科目がありましたら、是非次年度に受講されてください。

研修の様子をみていると、会を増すごとに、受講者同士の繋がりも強くなっているように見受けられたこと、そしてみなさんがこの研修で学んだことや気づきが、実践の中で役に立っていれば何よりです。

最後に、お忙しい中講師を引き受けて下さった皆さま、運営の協力を頂いた研修部や会員の皆さま、大変ありがとうございました。次年度もよろしくお願いいたします。

コラム：古里の離島に船で帰る

A・M

Sさんは離島出身でサバニを作る有名な方だったらしい。

直近は施設で生活していたが、入退院を繰り返し体力的にも弱ってきている状況だった。普段からよくお喋りをし、また涙もろい方ではあった。ここ最近では食事に対する拒否があり、このまま食事摂取量が増えなければ、予後1ヶ月ないかもしれないと主治医から説明があった。

入所していた施設は、看取りができないと受け入れを断られた。新たに施設を探すのか？娘さんと相談を進めていた時、「離島に帰してあげようかな。少しの間であれば私も泊まって介護できるから。」と。離島の実家には長男さんが一人で生活していた。一人息子長男と、Sさんは衝突することが多く、お世辞にも仲が良いという関係ではなかったらしいが、今回の帰省の話には長男も了承され、後にSさんと打ち解けることができたという話を聞いた。家族の決断は簡単ではなかったと思うが、Sさんのためにも古里へ帰ることを決めSさんに伝えた。Sさんは元々涙もろい方であるが、古里に帰ると伝えた後から更に涙もろくなったように見えた。それほど嬉しかったのだと思う。

その時、食事の摂取量も入院当初より更に少なくなっていたので、主治医より残された時間も短いかもしれないと改めて説明があった。できるだけ早めに帰る調整をする必要性があった。離島での支援体制や受け入れがどうなっているか不安があったが訪問診療、訪問看護、CMへ情報提供、受け入れ相談をすると二つ返事で「大丈夫ですよ。受け入れできます。ベッド搬入も数日で準備できます」と頼もしい言葉。離島への退院及び搬送は私自身初めての経験であったためとても心強かった。

その後随時情報共有を行い、娘さんの在宅退院希望の話を聞いてから5日後には自宅に退院することができた。自宅までの移動は船を利用することとなり長時間かかってしまったが、大きな問題なく到着することができた。

今回の退院支援で、改めて地域連携・多職種連携が大切であることを身にしみて感じることでできたケースであった。日頃の退院支援でも連携を大事にしながら取り組んで行きたいと思う。

新入会員①

北中城若松病院 安里愛理

4月より北中城若松病院に入職になりました、安里愛理と申します。

社会人として半年が経ち生活に慣れてきたと感じております。MSWとしての仕事については、まだまだ難しいことも多く日々業務の中で学びながら勤めています。知識を増やし経験を積みながら患者様・ご家族にとってより良い支援が提供できるように努力していきたいと思っております。今後ともご指導をよろしくお願い致します。

(ここからは香村が記載)

と、安里は真面目に挨拶をしておりますが、可愛らしい笑顔で相談室の先輩たちを小バカにする一面もあり、席が右隣の私の失敗を笑い反面教師にして日々奮闘しています。どうぞ皆さまよろしく申し上げます。

新入会員②

北中城若松病院 玉城沙都子

初めまして。昨年12月より、若松病院に勤務しております、玉城沙都子と申します。
平成24年にアガペ会へ入職し、これまで法人内のデイサービスや有料老人ホームの生活相談員として勤務しておりました。今回部署異動で、病院へ勤務する事となり、初めての医療ソーシャルワーカーとしての業務に、戸惑いの日々ですが、先輩ワーカーの皆さんに助けをもらいながら、あっという間に1年が経過しようとしています。現在、認知症治療病棟を担当しておりますが、認知症の患者様と、そのご家族の支援を行う中で、認知症特有の課題が多く、退院支援においてもなかなかスムーズにいかない事もあり、ワーカーとしてジレンマや葛藤もありますが、入院治療により症状が改善され、ご自宅や施設への退院が叶い、患者様やご家族の笑顔で退院されていく時に、とてもやりがいを感じています。まだまだ未熟者ですが、今後も他の医療機関や、事業所の方々との連携を図り、患者様やご家族様に良い支援が行えるよう努めていきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

(とても素敵な挨拶なので香村のコメントを控えます・笑)

その他、当院には、富永(認知症疾患医療センター/PSW)→退会しようと思んでいるようなので香村が必死に止めています(笑)。医局や病棟からの信頼が厚くビールジョーグーの照屋(一般病棟MSW)、私の計5名の会員がおります。今後ともよろしく願いいたします。

平成29年11月 理事会議事録

開催日時	2017(平成29)年11月27日(月) 18:30~20:00
場 所	那覇市立病院 1階
出席者	伊禮(連絡) 樋口、新垣(司会)、石郷岡、島袋(記録)、

【各部会報告】

1. 研修部(伊禮)

・第2回 入退院支援連携デザインに係る研修会

テーマ「住民のどう生きるかを支えるエンパワメントについて」

～自分自身の笑顔とちからを活かす～

日時：12月23日(土) 13時~17時

場所：浦添市産業復興センター 結の街 大研修センター

対象：MSW、市町村職員、包括、CM、保健所職員、退院支援看護師

参加費：無料

問い合わせ：大浜第一病院 地域連携課 又吉智子

・めだかの学校

テーマ「回復期の退院支援について」 講師：安慶名さん（大浜第2病院）

日時：12月20日（水）19時

場所：ハートライフ病院

対象：概ね3年未満の新人MSW

参加費：無料

・めだかの放課後

テーマ 未定

日時：平成29年12月21日（木）19時

場所：ハートライフ病院

対象：概ね4年以上のMSW

参加費：無料

・めだかのホームルーム

テーマ 未定

日時：平成30年1月18日（木）19時

場所：未定

対象：概ね5年から10年の中堅 MSW

参加費：無料

問い合わせ：大浜第一病院 當銘

・OGSV

隔月開催 12月はお休み

※協会の研修体制について（樋口・島袋）

10年以上のOGSV,中堅者・初任者の自主勉強会を含めて、体系的に研修体制を構築する。

研修内容の報告を定期的に行う。アンケートなど検討。

各勉強会のリーダーは研修部で推薦を行い、理事会で任命する。

領域ごとの勉強会を検討する。（周産期など）

2. 広報部（代理：伊禮）

牧港中央病院（友寄）担当。

11/28提出

3. その他（樋口）

・ハンセン病市民学会

日時：H30年5月19日・20日に沖縄で開催予定

・沖縄県SW協議会より

第6回ソーシャルワーク学会&社会福祉公開セミナー

・2018年2月24日（土） 場所：沖縄国際大学

・エントリー締め切り 2月24日

※九州医療ソーシャルワーカー協議会報告

1. 災害支援について

隣県の支援→災害支援対策費の徴収・積み立て ボランティア保険について
会費 300円/人

平成30年度～ プラス200円を積み立て

2. 九州医療ソーシャルワーカー研修会の名称変更について

学識経験者の意見を聞き、第60回の変更を目指す。

3. 協議会役員派遣費用について 全員には費用支弁なし。

4. 九州協議会事務局運営について

通帳名義変更

5. 教育研修部会との合同会議

※九州大会実行委員会報告(伊禮) 平成29年10月31日 19時～ ハートライフ病院

・大会スケジュール

・平成30年11月23日(金) 九州医療ソーシャルワーカー協議会 中堅者研修

・平成30年11月24日(土) 25日(日) 学会

・大会テーマ(案)「ソーシャルワークの肝心」

～今こそMSWのポジショニングを考える～

※平成29年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業 (樋口)

・在宅医療・介護連携推進事業に係る意見交換会・見学会

<南部・中部圏域：那覇市立病院会場>

・日時：平成29年12月5日(火) 13時～16時半

・場所：那覇市立病院 3階講堂

・対象：市町村職員、地域包括支援センター職員

介護支援専門員協会悪因・支部長、その他市長村などから推薦のあるもの

次回理事会

日時	12月18日(月) 18:30～
場所	那覇市立病院
担当	司会：又吉 書記：泰 連絡係：伊禮

はいさいワーク

はいさいワーク NO. 87

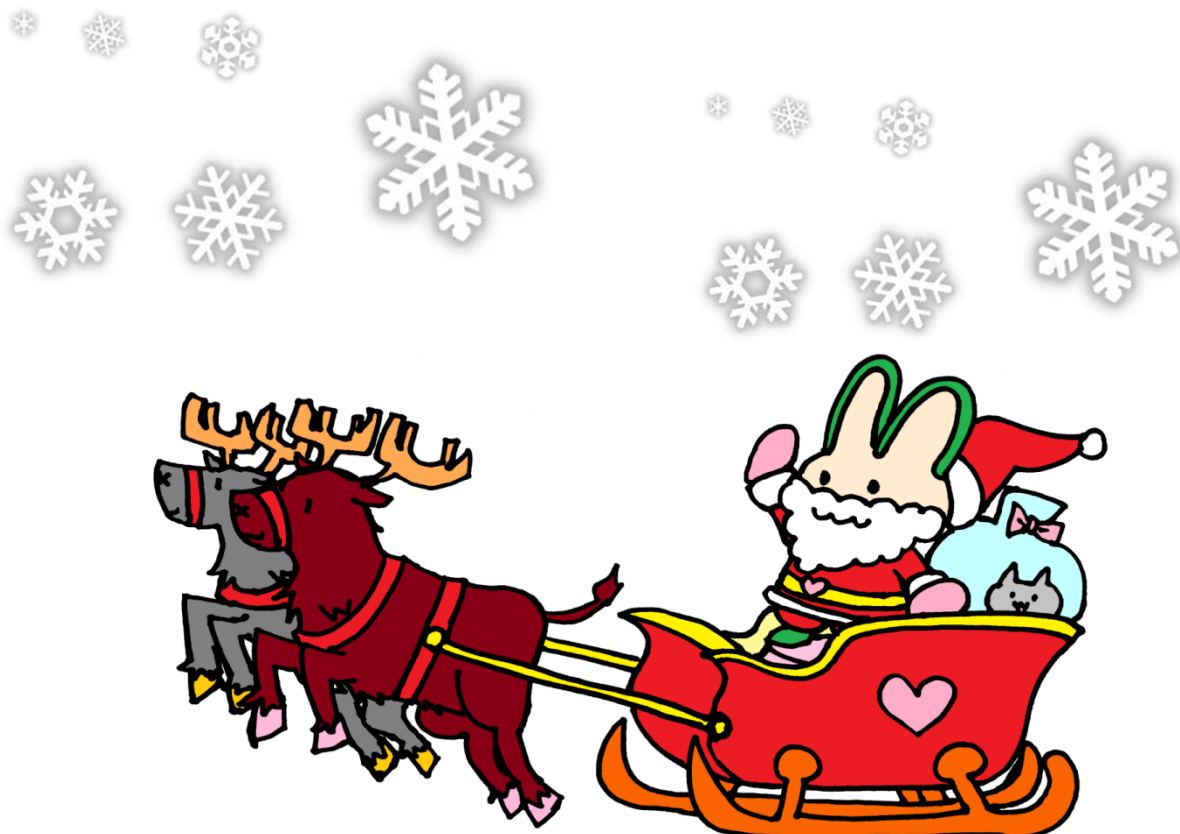
2017/10/30

事業所名	医療法人ちゅうざん会 ちゅうざん病院
応募資格	社会福祉士、社会福祉主事
雇用形態	雇用期間の定め無し
勤務時間	8:30~17:30
給与等	当法人の規定に準ずる
担当者	ちゅうざん病院 事務部 仲栄真
連絡先	098-982-1346

はいさいワーク NO. 88

2017/11/17

事業所名	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院
応募資格	社会福祉士(産休代替職員)
雇用形態	産休代替職員
勤務時間	勤務時間:8時30分~17時15分(1日7時間45分)
担当者	琉球大学医学部総務課人事第二係 宛
連絡先	098-895-3331 内線 1009



各部門報告

研修部だより ～平成29年12月（以降）の予定～ 2017/11/22 現在予定

■第2回入退院支援連携デザインに係る研修会

テーマ	住民のどう生きるかを支えるエンパワメントについて～自分自身の〈笑顔〉と〈ちから〉を活かす～
日時	12月23日（土） 13:00～17:00
会場	浦添市産業復興センター・結の街 大研修センター
対象	MSW、市町村職員、包括、CM、保健所職員、退院支援看護師等
参加費	無料
問い合わせ	大浜第一病院 地域連携課 又吉智子 TEL) 866-5171

■めだかの学校

テーマ	回復期の退院支援について 講師：安慶名さん（大浜第二病院）
日時	12月20日（水）1900-
会場	ハートライフ病院
対象	概ね3年未満の新人MSW
参加費	無料
問い合わせ	ハートライフ病院 川満 TEL：895-3255

■めだかの放課後

テーマ	未定
日時	平成29年12月21日（木） 19:00～
会場	
対象／参加費	
問い合わせ	

■めだかのHR

テーマ	未定
日時	平成30年1月18日（木） 19:00～
会場	未定
対象	
参加費	無料
問い合わせ	大浜第一病院 當銘

■OGSV

テーマ	未定
日時	平成29年12月13日（水） 18:30～
会場	那覇市立病院 4階カンファレンス室
対象／参加費	
問い合わせ	那覇市立病院 島袋

発行：研修部 香村

めだかの学校：誰もが安心して住みやすい地域づくりをめざして

沖縄赤十字病院 医療相談室 比嘉浩貴

10/18（水）与那原町社会福祉協議会の講師による勉強会に参加しました。

講師を引き受けて下さった我謝様、場所の提供をして頂いたハートライフ病院様、勉強会に参加して下さいました皆様へ感謝いたします。

私自身、社会福祉協議、以下「社協」との関わりが薄れていたため今回は学ぶ機会を下さりとてもよい刺激を受けました。

市町村によっても社協の取り組みは異なっており、与那原町社協も地域住民のニーズに応えるため工夫して取り組みを行っている実感しました。

個人的には日常生活自立支援事業や生活福祉資金（貸付制度）が印象的で、生活困窮者の問題解決に繋がる一つの制度なのでMSWとして理解すべき制度だと改めて実感しました。

我謝さんは、地域住民と普段から顔の見える関係づくりを意識し、地域の課題を「他人事ではなく自分事」として捉えてもらえるアプローチ方法を考えているようです。

地域住民の安心した生活を支えるためにも、コミュニティーソーシャルワーカーの存在は必要不可欠だと思いました。

誰もが安心して地域で生活するためにも、私たちは社協や他の専門職と主体的に連携を図り、ネットワークを構築することが今後の課題だと思います。些細なことでも気軽に相談できる関係性を気付くためにも、今後も引き続き他職種と連携を図っていきたいと思います。

最後までお読みいただきありがとうございます。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 ホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

☆ 編集後記 ☆

あっという間の一年！！年齢を重ねるにつれ、時間が過ぎていくのが早いような・・・(?)

年末に向けてのお忙しい時期に快く原稿を引き受けて受けた皆様、感謝致しますm(_ _)m

今年1年、医療連携を含め大変お世話になりました。

来年も宜しく願います。よいお年を～(^)/

